

筑後川水系切通川 広域河川改修事業

事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生

平成2年7月洪水

浸水戸数 床上3戸 床下124戸

浸水面積 270ha

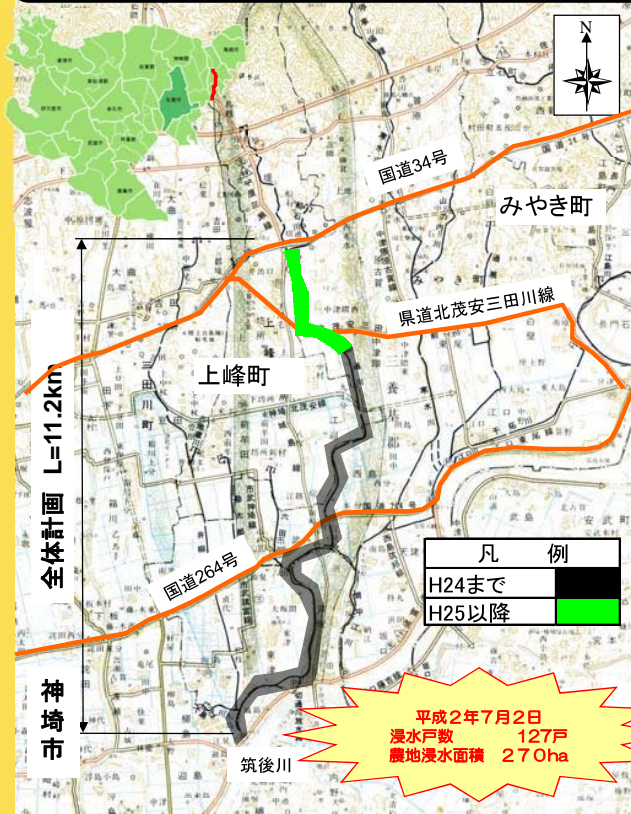
○浸水被害の軽減を図る

- ・流路是正、狭窄部解消を実施
- ・治水安全度の向上を図る

計画流量 $190\text{m}^3/\text{s}$

計画治水安全度 $1/50$

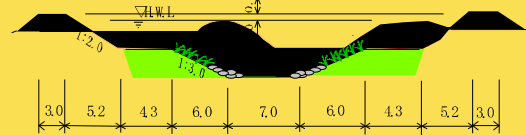
**切通川広域河川改修事業 着手年:昭和50年度
事業地:神崎市、みやき町、上峰町**



○事業概要

- ・全体事業費13,000百万円
- ・事業期間 S50~H35
- ・改修延長 11.2km
- ・計画流量 190m³/s
- ・計画治水安全度 1/50
- ・掘削・築堤・護岸、橋梁14基、堰8基
- ・費用対効果 5.7

標準断面図



事業進捗状況(切通川)



○事業進捗状況

- ・筑後川合流点から舞郷橋下流までの約 8.7kmについて、暫定改修(1/30計画)が完了している。
- ・平成24年度末進捗率 80%(事業費ベース)
- ・年平均進捗率 2.1%

- 完了区間
- 未完了区間

費用対効果 B/C

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年までの総便益額 (被害軽減額)

(総費用額C及び総便益額Bをそれぞれ現在価値化し比較する)

総費用C: 30, 328百万円

総便益B: 172, 307百万円

《内訳》

- ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所資産、農漁家資産) 60, 350百万円
- ・農作物被害(水稲、畑作物) 3, 966百万円
- ・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁、農地等) 102, 232百万円
- ・間接被害(事業所の営業停止被害、応急対策被害等) 5, 670百万円
- ・残存価値 89百万円

※ 費用対効果

$$B/C = 172, 307 / 30, 328 = 5.7$$

切通川 破堤状況

平成14年9月16日～17日
(秋雨前線豪雨)

(鳥栖土木事務所雨量観測所)

最大日雨量: 165mm (同観測所既往第5位)

時間最大雨量: 63mm (同観測所既往第2位)



平成9年7月7日～8日（梅雨前線豪雨） 切通川

みやき町中津隈



最大日雨量143mm
時間最大雨量27mm
(鳥栖土木事務所雨量観測所)

切通川 北茂安町中津隈



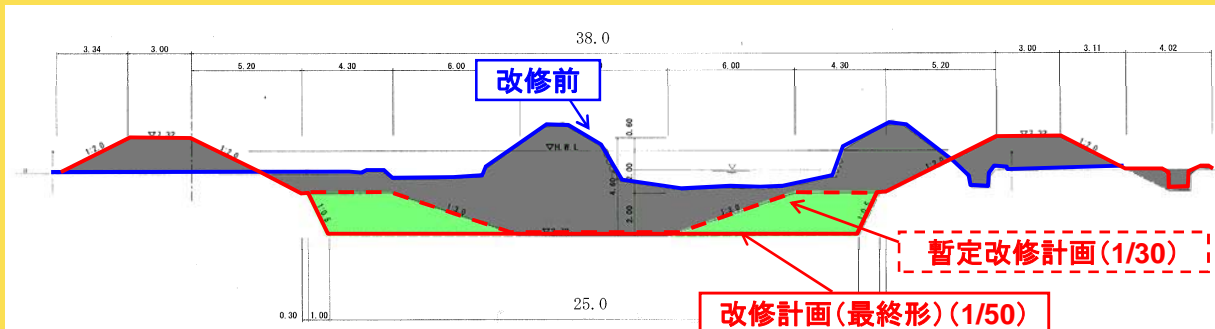
県道北茂安三田川線(中津隈橋)
(みやき町中津隈)



(国道264号より上流)

整備区間状況(中流部)

国道264号直上流

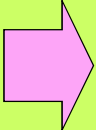


完了区間状況

九丁分橋



改修前



改修後

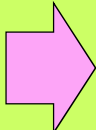


完了区間状況

舞郷堰



改修前



改修後



未改修区間状況(上流部)

国道34号より下流の堰

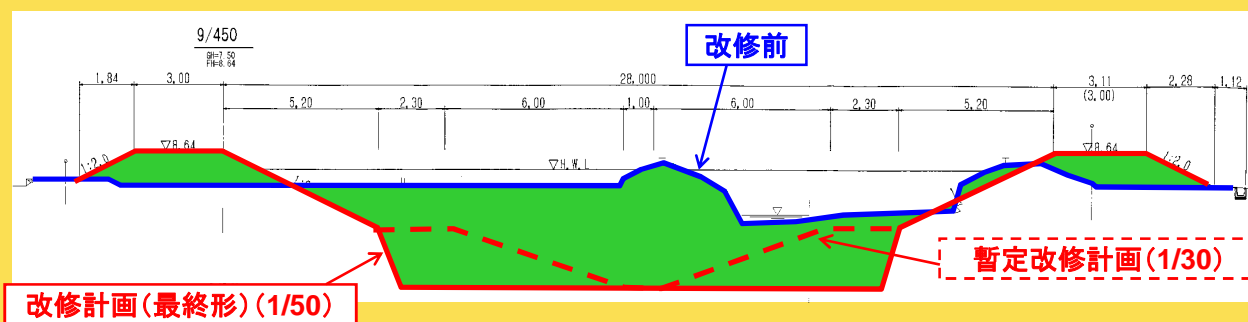


既設の堰があり、河川断面が狭小

国道34号直下流



上流区間(現況)は、川幅が狭い



多自然川づくりの状況



改修後の河川

- ・河川幅を拓げることで、これまで狭く、単調だった流れに自然な蛇行が生まれ、瀬と淵が創り出されており、水生生物の良好な生息環境になっている。
またそれらを餌とする鳥類等も確認されている。
- ・水際には捨石を配置することで、洪水時等の小魚の隠れ場所となる。

今後の切通川広域河川改修 事業の継続について

☆河川改修の効果☆

①治水安全度の向上

○まずは、暫定計画(1/30)による改修を進め、
早期事業効果の発現を図りたい。

○その後は、1/50計画での整備を実施し、
治水安全度の向上を図りたい。

②平成2年7月洪水による

浸水被害 127戸

浸水面積 270ha } の軽減

③地域住民の安心・安全の確保

☆今後の事業展開☆

事業を継続し、早期完成を図りたい。